

V o l . III SWEET TEN

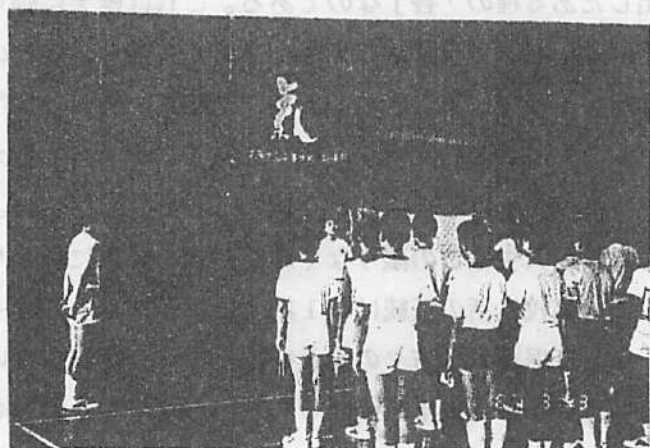
基礎的な体力、運動能力は現在の11期生でも、1、2期生でもあまり変わらない。変わったことは施設、設備や用具が充実してきたことだ。また、チーム内の組織力が強化されてきた。これは保護者会、OB保護者会、OB会等の組織化もそうであるが、選手達の間での、礼儀、挨拶、その他のチーム力強化の源が年々高められていることがもっとも大きい。

その具体的なものの一つに、選手達の考え方の成長が上げられる。毎日活動日誌を個人個人提出させてきたが、その中に書く内容が最近変わってきた。つまり、当初は個人的な悩みや、故障の様子くらいのものであったが、現在の選手は「チームが勝つためには」という内容の日誌を書く者が増えてきている。「私達は最近全体的に消極的になってるのではないか?」「〇〇君が活躍するためには、我々はこれをしなくてはならない。」のように指導者的見地に立つ者が少なくない。ある選手は「つらい、けどがんばる」とただそれだけ綴る日もあった。そんな日誌を朝一番に目を通すとき私の心が雲で覆われる様な気がしてくる。しかし、そんな選手もまた元気ががんばる。それは「〇〇先輩もこうだったから」あるいは「そんなときは〇〇先輩はこうしてたぞ」という昔の話しにいつも救われることがよくある。また、最近の選手達の日誌での決まり文句は「マイナス思考になるな」である。これはまさしく1期、2期の先輩方の体ではじき出したある種の「答」なのである。これは確実に強く反映されている。また、「引退」という言葉がなくなったのも、代々のOBの送ったまっすぐな高校生活をなぞっていることでもある。進路を決める、大学に合格するというのも、バドミントン部の大事な目標でもある。そうして迎える卒業式の朝の練習まで、「高校生」は限りなく走り続ける。日誌は選手によっては3年間で数十冊にも及ぶ。人生はこの限りなく輝く時代を背景に色とりどりに織りなされていく。この高校生活の伝統は11期生だけが作り上げたものではなく、代々のOB、そして保護者の方々の賜と感謝しなければならない。

本年男女アベック優勝という輝かしい成果を上げられたのもそうした礎のものである。「西武台千葉は相当遠い県外から選手を集めている。」といった話しを聞かされた。しかし、これらの優勝は一部のエリート選手の力だけでは成し得ないことはこの選手達が一番知っている。自転車通学、親の送り迎え、〇

Bの応援、地元の方々の協力……等々、ややもすると「時代遅れの」で都会的で、スマートではないこれらの要素の結晶なのである。

ミュンヘンオリンピック水泳平泳ぎのメダリスト田口選手（現 国立鹿屋体育大学教授）は、彼の講演で次のように話した。「選手には、『運』『不運』が常につきまとうものです。だけど、その運（幸運）を自分のものにする方法をご存知ですか？その答は、ゴミを拾うことです。また、朝、人にあったら『おはようございます』と挨拶することです。簡単なことですよ。『いいことをすれば、いいことがある』そんないい気持ちになれますよね（笑）」これは選手に伝えた話しである。真面目な彼らは実践してみる。これは心理学的にも選手のイメージトレーニングにつながる事らしい。しかし、選手達も時としてこのような生活に迷いや、あせり、他の生徒を羨む、あるいは逆にバカにされる時もしばしばあるようだ。大学生になった時、「浦島太郎」のように世間についていけない様な錯覚になる、という卒業間もないOBの声も聞く。だけど、そのあと、大学4年、そして社会に出始めたOBのこんな声も聞く。「高校生が羨ましい」、「久しぶりに訪れた、体育館に入った瞬間の雰囲気最高にいい」高校生はOBに励まれ、OBも現役の高校生に再び元気つけられ、お互いに相思相愛の10年間であったような気がする。これが今年の、そして最近の西武台千葉、西武台中学バドミントン部の原動力であると確信する。次の10年間はさらに大きく羽ばたく愛をお互いに打ち合う事だろう。



初めての信州合宿
1、2期生 上田女子短大 '87

三浦君に見守られて

高瀬 麻美

それは初めて聞く母の声だった。

「以前バドミントンでお世話になりました三浦の母ですが……、憶えてらっしゃいますか」

憶えているものにも、三浦君といえばまさしくあの隊長だ。突然の電話に不吉な予感がよぎり、勿論よく憶えていますと言うつもり言葉はしどろもどろのまま訃報が届いた。

三浦君の印象は、高校時代よりも卒業してからのものが一層強い。彼は花見、夏合宿、もちつき大会とOBの集まりにはたびたび顔を出したからだ。私は、男子生徒とは現役時代話しをする機会はそう多くはない（最近はそうでもないが）。それがOBになると、彼らは気楽に話しかけてくるようになる。そして思い出話に声を立てて笑う。三浦君もそうだった。居酒屋で酎ハイ片手に職場の事、部活の思い出を語った。

いつの事だろう。もちつき大会で、シャトル代寄付を募り、即席の募金箱を持った女子生徒がOBの間をまわった。その時三浦君はボンと寄付を入れた。多すぎる金額に躊躇した生徒は私のところに相談に来た。「あの。三浦先輩が一万円も入れてくれたんですけど……」。「えーそれは多すぎるよ。無理にお願いしたんじゃないの」と生徒をたしなめる。こんなに頂いては申し訳ないと早速生徒が寄付を戻しに行くと、

「俺が働いた金なんだから、いいんだよ」

三浦君は啖呵をきっていた。

こんな彼の気持ちが有り難かった。バドミントン部は多くのOBに見守られていることを強く感じた。

昨年の夏合宿には三浦君の姿はなかった。そして今年のもちつき大会にも。つい数日前、夫と三浦君の話しをしたところだった。「仕事忙しいのかね。もちつきに来なかったね」

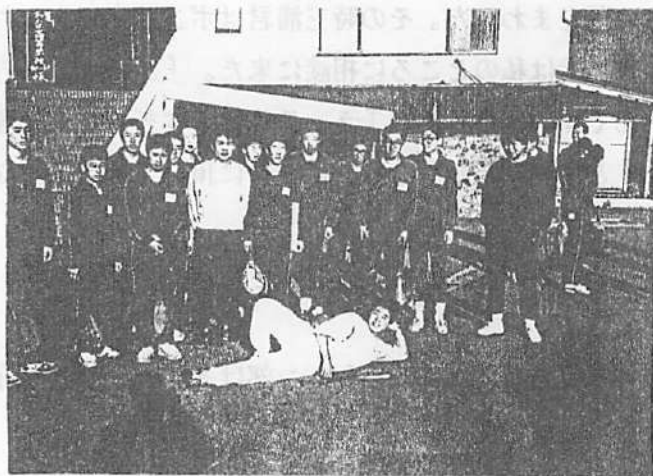
不器用で無骨だった三浦君とその仲間達。その要領の悪さを補うかのように何にでもひたむきに打ち込んだ彼ら。（今やそれが伝統として、多くの後輩に受け継がれている。）持ちよりの材料で、上手で豚汁や焼きそばを作ったことがあった。転がるじゃがいも、にんじんに悪戦苦闘し、しょっぱ過ぎる汁を水

で薄め、焦げた焼きそばを頬張った。午後の陽射しを受けた土手で記念撮影した。夕日をうけた顔々はひとときわ高揚し、その中央で三浦君は、あどけなさの残るあのはにかんだような笑顔でこちらを見ていた。

三浦一夫君のご冥福をお祈りいたします。



河原のバーベキュー大会 2、3期生達



2期生とともに
進路研修会にて '89

西武台千葉初の千葉県制覇！インターハイの切符をつかむ。

—男子団体戦優勝。個人戦(ダブル)小倉・山田組 (シングル)小倉インターハイへ！—

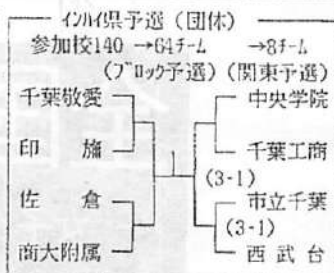
去る6月12日(土)千葉県立幕張東・西高等学校で行われた第46回千葉県高等学校体育大会バドミントン競技会兼全国高等学校総合体育大会バドミントン競技会選考会・団体戦において男子チームが宿敵千葉敬愛高校を激戦の末破り見事に優勝。念願のインターハイへ初出場を決めた。

ベスト8まで関東予選でしぼられた精鋭達は1回戦から気迫のこもったゲーム展開をくりひろげた。西武台は1回戦市立千葉に対し、第1Sの渡辺が思わぬ不調ファイナルゲームまでもつれ込むが、2ゲーム目以降は終始冷静なプレーで3-1で振り切った。2回戦優勝候補筆頭中央学院戦は1Sの渡辺が相手を寄せつけない気迫で圧倒2-0で勝つやいなや小倉、山田組もさえたプレーを連発し、1年前まではとても及ばなかった宿敵を見事に破り成長ぶりが光った。

決勝戦は第1Sから混戦になり渡辺が握選手のクロスカットからのカウンタースマッシュを予想できずあえなく1ゲーム目を落としたものの2ゲーム目中盤より上手にネット際に沈め相手を予想以上の長いラリーに持ち込み18-17と逆点ファイナルゲームは終始渡辺のペース、主将の貫禄を見せつけてくれた。敬愛のエース田中選手をはずしたオーガーはD2において西武台の乗りに乗ったペア小倉・山田組と全中経験者西川・梶原組と対戦。勢いとスピードで彼らを上回り2ゲームセットまでもつれたものの怯まず2-0で勝ちS2へとまわした。山田はやや疲れを見せながらも田中選手と対等に戦った。が新人戦の覇者田中に及ばず0-2で破れ、文字どおりがっぷり四つに組んだ状態で小倉のSへ廻った。敬愛西川選手は決勝まで楽に勝ち上がったためゲーム当初よりパワフルで角度のあるスマッシュと落ちついたネットプレーで小倉を押し気味1ゲーム目は11-15で落とした。これまでかと思われたベンチに光がさしたのは2ゲーム目、西川選手に明らかな疲労の様子がうかがえ、小倉の持ち前の弾丸スマッシュが決まりはしめ相手をよせつけず、ゲームカウントを1-1にした。場内は隣から駆けつけた女子を含み、また初優勝をめざす西武台への他校からの声援も重なり大応援台戦になった。熱気あふれる1ラリーごとに場内はかたずをのむ。シャトルがコートにたたきつけられるごとに両手をあげ心からの声援がとぶ。2ゲーム目で体力を使い果たしたかと思われた西川選手はよみがえり、いきなり6-3とリードしかしファイナルに強い西武台は最後の力を振り絞りスマッシュ、スマッシュ…6-6に。そこでやや相手が衰えたのを感じた小倉は果敢に攻撃、8点の折り返しをつかむ。10点を越えあと少しと喜んだベンチ、しかし勝利とはそんなに簡単に手に入らない。小倉の体がけいれんを起こした。足、上半身、手のひら…と一斉につり始め床に倒れる。相手ベンチはにんまり、主審はこの状況をインジャリータイム無しで冷酷にプレーさせる。点数が迫ってくる。ざわつく場内から小倉へ「がんばれ！」の声援。ルール上ベンチから手を出してはいけない。必死で立ち上がる小倉に場内から感動と励ましの拍手。まるでラグビーやボクシングの様である。高校スポーツならではの張りつめた思いが胸いっぱいにする。相手が7-3に揺さぶってくる。しかし小倉選手は果敢であった。最後の最後でスマッシュをたたきつける。相手も負けじと打つ、アウト…ゲームセット。その瞬間みんなが飛び上がり肩を抱きあい、涙を流した。大勢の父母たちも目に涙を浮かべ感激と、ねぎらいで手を握りあった。西武台千葉高校初優勝！OBたちの顔が目に見えんだ。

ファイナルゲームはめっぼう強い。このねばりとスタミナはもちろん日頃の訓練の賜物である。しかし、そのかげにはたとえばNTT東京の日本一の選手の胸を借りたり、ゴールデンウィークの埼玉栄での地獄の3日間、父母会、OB会からの暖かい援助…に支えられ、築き上げられたものである。さらに、この優勝を振り返ると、創部満6年を迎えた男子バドミントン部には「あきらめてはいけない。ひたむきに自分の全力をかたむけなければならない。」という鉄則ができあがっていることに気づく。つまり、OBは自分の果たせなかった夢を純粋に現役の彼らに託す。選手達の心の支えになり、自ら練習を買ってでて、手紙で励まし応援にかけつけ、そんなOBたちの熱き情熱が選手の体を借りて実を結んだのであろう。この場を借りてOBの諸君をはじめ関係の皆様方に心から感謝し、我々としてOBの諸君のこれからのますますの努力と決してあきらめない人間への成長をここに誓いたい。ありがとうございました。

西武台千葉高等学校バドミントン部 監督 高瀬 秀雄



— 決勝戦 —

(西武台)		(千葉敬愛)
S1 渡辺	2	梶 1
D1 立和田 加納	0	田中 2池田
D2 小倉 山田	2	西川 0梶原
S2 山田	0	田中 2
S3 小倉	2	西川 1



号外

1996. 1. 7

全国選抜初出場！

— 女子ダブルス 星野・平泉組関東第3位 —

先ごろ行われた関東高校選抜大会において、女子ダブルス、西武台千葉星野・平泉組が快進撃、第3位に入賞し、3月に北海道札幌で行われる全国高校選抜大会に出場が決まった。

大会成績

- 男子団体 前橋東(群馬)に善戦したが敗退
- シングルス 松井 関東一高の山口に善戦したが敗退
- 女子団体 宇都宮南(栃木)に善戦したが敗退
- シングルス 平泉 第4位 常総の長井に金星
- ダブルス 星野・平泉組 第3位

全国選抜は、3月25日から札幌市中の島体育館において行われます。
詳細は次号T&Bで



女子星野(9期)・平泉(10期)組が常総を破り初の全国選抜出場権を獲得！'95

TOP&BACK

北の大地に西武台シャトラ輝く！

—初の全国高校選抜出場！ '96. 3. 27札幌—

1996. 4. 19

NO. 0015

3月下旬といっても、北の玄関は0℃。道端には雪が残り、足元がおぼつかない。初の全国選抜は、北の国北海道札幌、中之島スポーツセンターで行われた。3月24日選手と私、そして自称小林コーチは飛行機で現地入りした。初めての飛行機に思わず靴を脱いで乗り込もうとした星野選手。そして、悪酔いの小林コーチには、初陣（ういじん）の香が漂っていた。

25日は、早朝より地元札幌静修高校で全国の強豪と共に公開練習に臨み、ますます緊張感がみなぎる。午後、大会会場に出むくと、古いスポーツセンターには、冬の少ない楽しみにと、道内各地から大勢の観衆が集まり場内に熱気がみなぎっている。全国選抜に出場するため、各都道府県でおおむね2位までの選手が、さらに各地方大会（関東、東北、北信越、等）で上位2位まで絞られているため、1回戦からレベルが高い。雪国は室内競技が盛んであるが、地元北海道、北信越の強さが目立つ。夕刻、役30名の西武台大応援団とホテルのロビーで合流し、夕食（これがまた豪華な）をとり、明日の試合に備えた。応援団は、母さん部隊、OB部隊、それとお子さま&イケイケ部隊の3編成で、かなりにぎやかで大会を盛り上げた。26日、昼近くに第1回戦、山形の米沢工業、高橋・神田組と対戦。彼女らは、山形のバドキチ、山口氏（50代の男性）が家の畑をつぶして建てた自前の体育館で育てた選手。氏の長女は実業団で活躍中。今回は妹の同級生が出場しているのだ。2人とも両親が付き添い、細々と大会に臨んだが、何かほのぼのとした温かい彼女らであった。きっと、あのような素朴な田舎の娘が強くなるのだなと思った。

試合が始まると、大応援が「ワーッ！」おまけにストロボが「ピカッ！」アナウンスで「コラッ！」さすが西武台。たしか、数年前の富山のインハイでも、女子の大塚正美の応援は男子のOBばかりという品の悪い時もあったが、今回はそれを上回る応援ぶり。そのおかげで2-0のストレート勝ち。2回戦に駒を進める。

2回戦の相手は、先ほどまで団体の決勝に出ていた、地元札幌静修高校の伴・二塚組。苦小牧出身の彼女らは札幌に下宿生活。北海道、いや今では全国的には珍しくないケースだ。これといって強さは感じられないが、こちらに弱さが感じられるゲームだった。しかし、ラリーになると互角の勝負。ダブルスの定石を知っていた先方に軍配は上がった。夏には何とかと、燃えてくる。

見渡すと、特に男子にだらしないやつが多い。名門といわれる学校でさえ、今風のででれしたやつがいる。しかし、案の定ベスト4にはそのような学校は入れない。男女とも上位はかなりきびきびし、特に常総学院は「さすが」という風格と強さを持っていた。その中、男子ダブルス、尾形・藤田組は観衆の目をひいた。セティングは全て取る。セティングになればなるほど、速いタッチの難しいラリーに持ち込む。これが常総の作戦である。土壇場に立つと、どうしても積極性に欠ける。だからわざと強く、速く積極的に攻撃する。個人戦でも堂々の優勝である。さらに、女子シングルスにおいては、九州国際大付属の森かおりが目を惹いた。富山の高岡女子、そして福島尚志高校の両中国人留学生に、ファイナルの末逆転勝ちした。福島の張とのファイナルは6-0で負けていたが、西武台応援団の加藤さんの「森がんばれ！」の声に大きくなづいて、そこから逆転。みごと決勝進出。男子のシングルスにおいても、決勝でアクシデント（転倒事故？）によって、優勝を逃したが、石川県の舛田は優れた選手であった。

大会で仕入れた沢山の練習材料と、北の大地のおいしい味を土産に東京へ戻った。ますます全国の壁が近くに見えた気がする。北の大地の地平線にかすかではあるが、キラッと輝く希望の陽を見たようだ。「打ち克て！」

P.S. 札幌ビール園の大パーティは実におもしろかった。次は甲府のワイン園だな。

T & B

特別 西武台千葉初のアベック優勝！インターハイへ！！

一団体男女優勝。個人戦も優勝。完全勝利！！

NO. 00016 1996. 6. 17

「1度に2度おいしい」そんな喜びを味わせて頂いた。男女千葉県優勝夢のようだが、かつて千葉敬愛もそんなことがあったような気がするが、やはり彼らもこんなにうれしかったのだろうか？うれしさにもそれぞれ度合いと、大きさがあって、我々のそれとは確実に異なると言えよう。

男子はこのほか順調。つい先日の関東大会で初のベスト8入りを果たして、意気は上がっている。1回戦、県立船橋戦は3-0楽勝。準決勝敬愛学園(旧千葉工商)3-0楽勝。確か、新人戦で敬愛学園に負けそうになったあと考えながら、女子のベンチから眺めていた。決勝になる前、一応全員に声をかけるが、「負けるわけがない」とか「一気に駆け！」とかもう忘れてたが、とにかくお互い興奮していた。

試合は始まった。当然相手は千葉敬愛。トップシングルスは敬愛菊地(2年)迎える西武台は1年のルーキー加藤。オーダーを見てとき、「これはいたただきだぜ…」と思っていたが、加藤得意の「アガリ」。フォアの羽をバックで上げる。シングルのなかにドライブの応酬は始めるし、1セット目をいといとなく惨敗。そこで将来のことを考える。つまりこのままでいいたら最高でも後の第2あるいは第3シングルスでの勝負になる。声には出さないが「これはまずい…」とやや不安になる。第2、第3シングルスは松井対桐生、大森対香川。どちらもやや西武台が不利である。敬愛の応援が今まででなく、一番大きい。「ワーッ！」怒鳴っている奴がいる、ふと見上げると加藤の中学時代のライバル田中である。きつと羨ましかったのだろう、だからヤジになっている。私もつい興奮して「バカ野郎!!」と怒鳴ってしまふ、もちろん加藤にである。加藤は見方にもやじられ最悪の戦場の中での戦いになった。しかし、持ち前のスピードとゲーム感覚で2、3ゲームを圧勝。第1ダブルス遠藤・田部井組につなげる。相手は大山・高橋。「おや、やるな」と気迫を感じるのは最初の5分くらいで後は遠藤の気迫と田部井のロープ最上段からのジャンピングスマッシュ(G馬場よりすごい)に、いじけはじめ、最後は「おいおい、西武台そんなにいいめるなよ！」と言われんばかりの圧勝。これで勝ったなと思ってい

たが、第2ダブルス大森・松井が1セット目を落とす乱調。相手はエース香川と若菜へア。気迫がやや感じられる。何とかファイナルへ、勝負感無くしている大森に渴を入れる。なんとと思ったら比奴が燃えるか「おい、加藤も勝ったぞ。遠藤も田部井も勝ったぞ。あとはおまえだけだぞ！」この脅し文句に彼は燃えた！と、思う…。ファイナルは若菜ねらい。「ワリーな若菜」、てな感じで圧勝。全員万歳！3年ぶり2回目優勝。みんなと労っている余裕もなく、私は女子のベンチに、そして男子は応援にと大移動。そのとき女子はダブルスが2つ並行して行われていた。第1Dは星野・平泉、相手は葛西・山本組。あっと忘れていた、対戦相手は前回関東予選決勝で敗れている東葉学園(旧船橋学園)である。第1シングルスは田中であつたが浅井に惨敗。個人戦が気になる。ダブルスは第2にはこの日初御目見得の小林(3年)島田(1年)組である。対する東葉は大塚・小野(1年)組であるが、両者とも全中出場経験者である。これは落とすとシングルスで勝負、ただシングルスはこちらに不利である。「あまた2位か…」とうなだれていたところに救世主島田、なんと西武台入学間もないにもう戦い方は完全西武台！「わお、あが、ぐるぐる走る、パチンコフィーバー台方式。圧倒された全中へは翻弄されている。明らかに「ムッとして」いる。こうなったらこちらのものさすが3年小林が上手にリード、勝った。これに沸き立つ西武台ベンチ。シングルス平泉は犬の苦手大塚に1セット目を落とすが、2セット目パワー全開。男勝りのガッツポーズでコート内をぐるぐるフィーバー、隣の小林对小野は対照的に静かに、静かに戦いが繰り広げている。平泉2ゲーム目を取る。「ヨッシャーよくやった平泉！」本人興奮まったくさめず、私の言うことはとうてい耳に入っていない。「ま、いつものことだから」とぼんやり考えていると、小林があれよあれよとゲームの終盤を迎えている。星野が泣いている。キャプテンとして人の何倍もの重圧に苦しみながらの1年間。思わずこちらもウルウル…。「バカ、まだ終わっちゃいねえだろ！」だけどそのとき小林はマッチポイントを握った。ラウンドからのストレートスマッシュが小野のフォア奥を鋭く突く、小野が遅れる、ラケットにあたるがシャトルはコートの外へ…優勝!!よくやった。観衆も涙、涙。私も隠れて顔を洗う。学校へ電話しなくては。そう、望月先生に早く知らせなければ。先生はその

中学生の面倒を見るため学校で留守番、電話がなかなかつながらない。体育館につながる「先生優勝しましたよ、男女とも!」「エーッ!!」驚きで大声の望月先生、「学校中に放送入れなくちゃ!!」。

帰りのバスの中はまるで風呂上がりのいい気分。今回の優勝を振り返る。選手はもちろん頑張った。親もみんな本当にバックアップをしていた。私もそれなりに入れ込んだ、OBもよく面倒を見てくれた(モクレン、合宿・50軒ツツミ社)、そしてOBの保護者の方々にも当日の応援をはじめ実にいるとお世話になった。そして地域の方々にも。そうです、合作です。この優勝はみんなの合作です。だから優勝の味も、色も違うのです。西武台色の、西武台の味付けのスベシャルメニュー、お楽しみいただけましたでしょうか？次回は「風林火山」でお馴染みの甲斐の国、甲府の「ブドウ色の感動と甘酸っぱい思い出」をどうぞ…。

平成8年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技 千葉県選考会(6/12県総合体育館) 大会結果

(個人戦については後日まとめて報告させていただきます。)



この作品の作者の方々(一部)の記念写真

JUMP SMASH

西武台千葉高等学校バドミントン部10周年記念祝賀会
同 バドミントン部全国大会出場壮行会

のお知らせ

とき 平成8年7月27日(土) 18:00~
ところ テサンホテル大利根 野田市瀬戸548 TEL 0471-38-2111

詳細は後日ご連絡いたします。OBならびにOB保護者の皆様も是非ご出席願います。当日、記念誌の配布も行います。

NET IN

- 10周年記念誌原稿お待ちしております
- OB練習会「モクレン」に是非参加下さい。(毎週木曜日夜6:30~西武台)
- 〒270-02野田市尾崎2241-2 TEL 0471-27-1111
西武台千葉高等学校 FAX0471-27-1138
- 〒270-02野田市船形1023-1 TEL 0471-29-0678
高瀬 秀雄 携帯 030-430-6048

かけぬける夏風を熱い山梨で